

2015 年度活動報告 交換授業：インテンシブ 2A（文法・読解）

瀬井 陽子（関西学院大学日本語教育センター）

手科 美保（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは、初級後半の文型とことばを学び、それを使って日本語を読んだり書いたりすることができることを目標に、1 週間に 3 コマ授業を行った。メインの教科書『みんなの日本語Ⅱ 第二版 本冊』の 26 課から 45 課と 47 課の一部である「そうです（伝聞）」を授業で扱い、学習者は『みんなの日本語Ⅱ 文法解説』の英語版やフランス語版など自分の言語に合わせた文法解説書を使用しながら授業を受けた。

2. 授業内容

授業では、各課の語彙確認、文法項目の導入・口頭練習・文完成・ペアワークを行った。どんな状況や場面でその文型を使うのかを理解させることに注意し、文法形式だけに焦点を当てた練習にならないよう気を配った。進度は、教科書の 1 課を 1 コマないし 1 コマ半で進め、3～4 課ごとに復習日を設けて、学習内容を整理する時間を作った。昨年度までは、この復習日に文法項目を確認したり、練習問題を解いたりすることが多かったが、上のレベルでは、より読解力が求められることを見据え、今年度は復習日に必ず読解の時間を取ることにした。読解の活動は、内容が理解できているかを確認するだけでなく、自分のケースに当てはめて話をする・意見を言うなどの練習を行った。また、昨年度までは教科書の新出語彙は、読んだ時に意味が分かればよいというレベルに留めていたが、新出語彙を使って短文作成をするという課題を出し、新しく学んだ語彙を積極的に使ってみよう促した。

3. 成果と今後の課題

読解の活動は、どの学習者も積極的に取り組み、文法導入の時間には見られない学習者の姿が見られた。ただ、時間の都合上、授業では短文読解しか扱えなかったため、今後は長めの読解も授業で扱い、速読と精読を区別して読む力を伸ばせていけたらと思う。今年度から取り入れた新出語彙の短文作成は、学習者自身が使いたいと思う文脈に合わせて短文を作っていたため、語彙の意味が理解できているか、文脈に合った使い方ができているかを教師が確認しやすかったという点で良かった。課題が増えるという点を懸念していたが、学期末アンケートで 9 割以上の学生が進度、宿題ともに満足していると答えたことから、量的にも妥当であったと思われる。